

2011.1.19「第二次菅内閣は恥知らずの内閣だ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

先週の1月14日に第二次菅内閣が発足しました。この顔ぶれを見て驚かれた方も多いと思います。まさに「恥知らず内閣」だと言わざるを得ないと思っています。その第一の理由が与謝野議員の閣内入りです。与謝野議員は元々自民党にいらっしゃった方で、私も一緒に勉強会に参加したことがあります。この国会の中でも、鳩山議員や小沢議員の政治とカネの問題に、衆参の違いがありました。共に追及をしてきました。その与謝野議員が菅政権に入ること自体、理不尽な話です。そもそも与謝野議員は2年前の衆議院選挙において小選挙区で落選され、比例復活で衆議院議員になりました。つまり、比例で「自民党」と書かれた人によって議席を得たのです。現行法では比例で当選された人は他の政党に移ることは出来ません。しかし、選挙以前にあった政党には移れませんが、たちあがれ日本は選挙以後にできた政党ですから、比例で当選された方も移ることが出来たのです。本来なら、たちあがれ日本に移られたことも比例代表の選挙の道理から言うに通らない話です。ただ、与謝野議員らがたちあがれ日本を立党した主旨は「自民党執行部の追及だけでは生ぬるく、もっと厳しく民主党を攻めなければならなかったから」ということだったはずです。ところが、今度はその民主党の菅政権に、たちあがれ日本からそのまま入閣されてしまいました。もちろん、たちあがれ日本を離党され、会派として

民主党に入ると言われておりますが、これは全く説明がつかないことです。まず、入閣するのであれば衆議院議員を一度辞職されてから、民間人として出直すべきです。これが法律上、絶対に必要なことなのです。

そして、次にこの問題を道義的に考えてみると、より理不尽な話であります。一体、与謝野議員の政治的主張はどこに行ってしまったのでしょうか。今まで民主党は駄目だと主張してきたけれども、与謝野議員は急に方針を転換され、入閣されました。しかし、今の菅政権に何か一つでもいいところがあるのか考えてみてください。少し考えれば分かるように全く無いわけです。財政再建は与野党共に考えなければならない問題だから仕方がないと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、これは御門違いです。まず、民主党がやらなければならないことは、無駄を発見でもなかったから言ってきた政策は出来ないと国民に謝るべきなのです。そもそも、彼らは先の衆議院選挙の時に「無駄を無くせばカネはいくらでもある。無駄を無くしてそのお金を子ども手当や、高校の無償化に回すのだ」と謳っていたわけです。ところが、現実には彼らの言う無駄は全く無く、それらの政策に回す財源は無かったわけです。それでも自分達がマニフェストに謳ったことを実行しなければならなくなり、赤字国債を乱発して今日の財政危機を招いているのです。彼らがやっている子ども手当等は、無駄を無くしてからやるという前提だったのですから、財政再建をするのなら、予算に無駄がなかったからそれらの政策は出来ないと国民に謝るべき

なのです。こうした無理を放置し無駄な予算の蛇口は閉めないで、財政再建や消費税を上げて財源を賄うのだというのは本末転倒も甚だしい話です。

消費税を上げることももちろん重要な課題ですが、何度も申し上げておりますように、今、最優先すべきは景気対策であり、デフレをいかにして食い止めるかということなのです。そのためには増税するのではなくて、まず、経済のパイを増やさなければなりません。そのためには国債発行も仕方がないことだと思います。ただ、民主党がやっているように、赤字国債を子ども手当などの給付に回すのではなくて、建設国債を公共事業や耐震化の設備などの雇用に繋がっていくような予算に使っていくべきです。その後、それを回収するために消費税といった負担の議論もしなければならぬわけです。そのような財政再建のための方向付けは自民党の麻生内閣の時にきっちりと国民にも伝えていました。その時に、与謝野議員も我々の話に賛成されていたはずなのに、今民主党がやろうとしていることは似て非なる物です。従って、私は与謝野議員の行動を理解することが出来ません。次期国会で与謝野議員を徹底的に追及していかなければならないと思っております。

また、今回、江田五月元参議院議長が法務大臣になりました。三権の長、つまり総理大臣を指名する側が総理大臣から指名されて大臣になるというのは前代未聞です。それだけではなく、江田議員は参議院議長の時も、無茶苦茶な議会運営をしました。私たちは彼に対して問責を出しましたが、それがうや

むやにもみ消されました。そして、そのまま鳩山内閣から菅内閣に変わったために、この問責の話も再び議題に上がることがありませんでした。この事を含め、かねてから彼が参議院議長の時にやってきたことについて、彼が大臣席に座るようであれば、我々は徹底的に追及していかなければなりません。

さらに、かつて財務大臣であった藤井裕久官房副長官についても質問したいことがたくさんあります。というのは、小沢議員の政治とカネの問題について、新進党の政党助成金がどこに行ったのか一番知っているのは幹事長であった藤井議員だからです。ですから、この前の財務大臣だった時も私は質問するつもりで用意していました。ところが、その事を察知したのか、健康上の理由と言うことで突然に大臣を辞任されました。今度は官房副長官という立場でこの方も答弁に出てこなければなりませんから、徹底的に追及していきたいと思います。

以上述べてきたように、民主党の問題は枚挙に暇がありません。しかしそれ以上に問題なのは、こういう問題がある方々を国務大臣に任命している菅総理です。まさに恥知らずで不道德、そして知恵がありません。菅政権は断末魔の様相です。これから国会が始まりましたら、徹底的にこうした問題を追及していきたいと思っております。今後とも皆様の御支援よろしく申し上げます。ありがとうございました。